

We Find the Way



For Where You'll Go Next

When it comes to your business goals, we believe there is a best way to get there. And we will work tirelessly to find it. We are a global logistics leader with 149 years of experience and a presence in 47 countries. We deliver everything from works of art and semiconductor chips to airplane engines and pharmaceutical products. And we have the expertise, infrastructure, and commitment to solve even your most complex supply chain and delivery challenges. So, wherever you go next, we'll always be right next to you. Learn more at nipponexpress.com.

We Find the Way
 **NIPPON EXPRESS**

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

2021年8月13日
日本通運 株式会社
経営企画部 IR推進室

目次

I. 2021年12月期 第1四半期 業績(短信ベース)

決算期変更について(短信ベース)	P.3
A. 2021年12月期 第1四半期決算概要	P.4
B. 日本・海外別実績	P.5
C. セグメント別実績	P.6
D. 売上高・営業利益増減内訳	P.7-

II. 2021年12月期 1月～6月(プロフォーマベース)

決算期変更について(プロフォーマベース)	P.10
A. 2021年12月期 4月～6月実績	P.11
B. 2021年12月期 1月～6月実績	P.12
C. 日本・海外別実績	P.13
D. セグメント別実績	P.14
E. 売上高・営業利益増減内訳	P.17-

III. 2021年12月期 業績予想

A. 短信ベース	P.20
1. 2021年12月期通期予想	P.21
2. 日本・海外別予想	P.22
3. セグメント別予想	P.23-
4. 売上高・営業利益増減内訳	P.26-
B. プロフォーマベース	P.28
1. 2021年12月期通期予想	P.28
2. 日本・海外別予想	P.28

3. セグメント別予想	P.29
4. 売上高・営業利益増減内訳	P.30-
C. 2021年12月期 セグメント概況	P.32-

IV. 経営計画の取り組み(進捗)

A. 日通グループ経営計画2023 KPI <コア事業の成長戦略>	P.41
B. 日本事業の強靱化戦略	P.42
C. 間接部門コスト削減 進捗状況(2021年6月末時点)	P.43
D. グループブランドの導入	P.44

V. 株主還元

A. 資本政策	B. 各種実績推移	P.45
---------	-----------	------

補足資料

補足1: 2021年12月期 1月～6月実績情報	P.47-
補足2: 重点産業の取り組み	P.51-
補足3: 日本発 輸出航空貨物重量動向	P.53
補足4: 輸出貨物動向(航空・海運)	P.54-
補足5: 2021年12月期 業績予想	P.56-
補足6: コロナウイルス感染拡大の影響・反動増の詳細	P.60-
補足7: 個別利益増減	P.62-

I. 2021年12月期 第1四半期 業績 (短信ベース)

I. 2021年12月期 第1四半期 業績(短信ベース)

決算期変更について

決算期変更に伴い、連結損益計算書は、財務報告(短信ベース)ならびに、12ヶ月換算ベースにより開示致します。

■ 財務報告(短信ベース)

国内事業：2020年度 4～3月(12ヶ月)、2021年度 4～12月(9ヶ月)、2022年度 1～12月(12ヶ月)
 海外事業：2020年度 1～12月(12ヶ月)、2021年度 4～12月(9ヶ月)、2022年度 1～12月(12ヶ月)
 *海外子会社の2021年1月～3月は連結株主資本等変動計算書に利益剰余金として取り込みます。

	2020年				2021年				2022年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
国内事業	2020年度				2021年度				2022年度			
海外事業					*							

■ 2021年12月期 第1四半期業績

*2021年3月期第1四半期、2021年12月期第1四半期実績の期間は下記の通りです。

国内事業：2020年度 4～6月(3ヶ月)、2021年度 4～6月(3ヶ月)
 海外事業：2020年度 1～3月(3ヶ月)、2021年度 4～6月(3ヶ月)

I. 2021年12月期 第1四半期業績(短信ベース)

A 2021年12月期 第1四半期決算概要

概要(連結)

(単位: 億円、%)

項目	2021/12期 1Q実績	2021/3期 1Q実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	上期予想 (今回発表)	差額	進捗率
売上高	5,450	4,720	—	—	10,900	△5,449	50.0
営業利益	201	44	—	—	360	△158	55.9
経常利益	234	63	—	—	380	△145	61.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	152	96	—	—	250	△97	60.8

(億円未満切捨て)

2. 連結経営指標(前年同期実績)

項目	2021/12期 1Q実績	2021/3期 1Q実績	項目	見直し (ご参考)	2021/3期 実績
売上高営業利益率	3.7%	0.9%	ROA	2.4%	3.6%
売上高経常利益率	4.3%	1.3%	ROE	6.6%	10.0%

(注) 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は、前連結会計年度と
当期連結会計期間の平均値を使用し、算出しております。

I. 2021年12月期 第1四半期業績 (短信ベース)

短信ベース

B 日本・海外別実績 (調整額含まず)

(単位: 億円、%)

セグメント	項目	2021/12期 1Q実績	2021/3期 1Q実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本計	売上高	4,358	4,050	—	—
	セグメント利益	150	58	—	—
海外計	売上高	1,478	964	—	—
	セグメント利益	83	14	—	—

(億円未満切捨て)

海外売上高比率

27.1%

I. 2021年12月期 第1四半期業績(短信ベース)

短信ベース

C セグメント別実績

(単位:億円、%)

セグメント	項目	2021/12期 1Q実績	2021/3期 1Q実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	上期予想 (今回発表)	差額	進捗率
日本	売上高	3,266	2,733	—	—	6,411	△3,144	50.9
	セグメント利益	115	23	—	—	221	△105	52.3
米州	売上高	267	205	—	—	557	△289	48.0
	セグメント利益	19	△0	—	—	32	△12	60.8
欧州	売上高	367	274	—	—	696	△328	52.8
	セグメント利益	17	2	—	—	28	△11	60.7
東アジア	売上高	459	265	—	—	895	△435	51.4
	セグメント利益	17	5	—	—	30	△12	58.2
南アジア・ オセアニア	売上高	383	218	—	—	748	△364	51.3
	セグメント利益	29	7	—	—	56	△26	52.9
警備輸送	売上高	171	169	—	—	343	△171	49.9
	セグメント利益	0	△8	—	—	6	△5	12.0
重量品建 設	売上高	123	131	—	—	254	△130	48.7
	セグメント利益	16	15	—	—	28	△11	57.6
物流 サポート	売上高	797	1,017	—	—	1,650	△852	48.3
	セグメント利益	17	27	—	—	36	△18	49.1

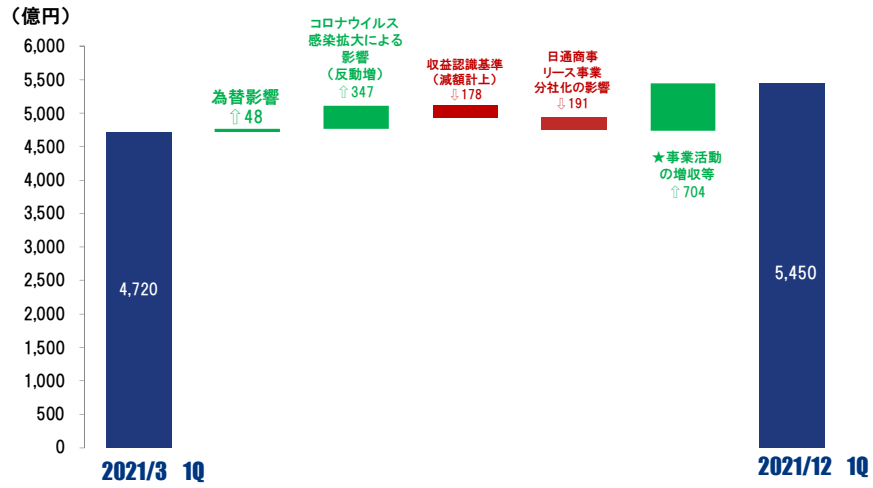
(億円未満切捨て)

I. 2021年12月期第1四半期実績(短信ベース)

短信ベース

D 売上高・営業利益増減内訳

1. 売上高

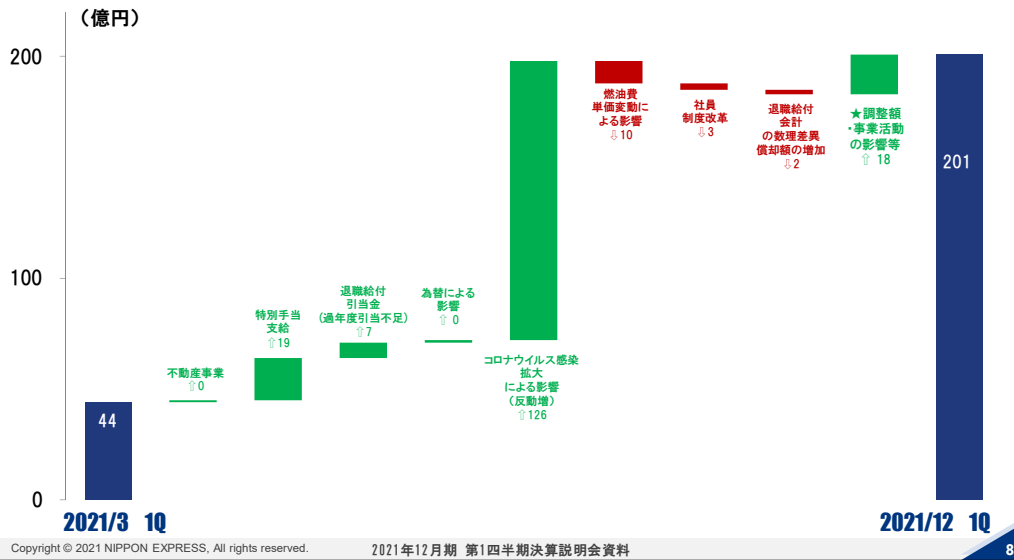


I. 2021年12月期第1四半期実績(短信ベース)

短信ベース

D 売上高・営業利益増減内訳

2. 営業利益



II. 2021年12月期 第1四半期 業績 (プロフォーマベース)

II. 2021年12月期（プロフォーマベース）

決算期変更について

決算期変更に伴い、連結損益計算書は、財務報告（短信ベース）ならびに、12ヶ月換算ベース（*見積）を補足的に開示致します。

*2021年の業績予想数値は、過去の消去率を使用する等の簡易的な方法により試算しております。
また、監査を予定しない参考数値となります。

■ 12ヶ月換算ベース

国内事業： 2020年度 1～12月（12ヶ月）、 2021年度 1～12月（12ヶ月）、 2022年度 1～12月（12ヶ月）
海外事業： 2020年度 1～12月（12ヶ月）、 2021年度 1～12月（12ヶ月）、 2022年度 1～12月（12ヶ月）

	2020年				2021年				2022年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
国内事業	2020年度				2021年度				2022年度			
海外事業												

■ 2021年12月期 1月～6月業績

*以下プロフォーマベースの対象期間は下記の通りです。

国内事業： 2020年 1～6月（6ヶ月）、2021年 1～6月（6ヶ月）
海外事業： 2020年 1～6月（6ヶ月）、2021年 1～6月（6ヶ月）

II. 2021年12月期 1月～6月業績(プロフォーマベース)

We Find the Way
NIPPON EXPRESS

12ヶ月換算ベース

A 2021年12月期 4月～6月実績

概要(連結)

(単位:億円、%)

項目	2021年4月～6月 実績	2020年4月～6月 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
売上高	5,450	4,759	691	14.5
営業利益	201	69	131	187.7
営業利益率	3.7	1.5	—	—
経常利益	234	86	148	173.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	152	99	52	52.4
海外売上高	1,478	1,015	463	45.6

(億円未満切捨て)

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

11

- ・2021年12月期 第1四半期の連結業績は、資料に記載のとおりとなりました。なお、本年から、当社は、決算期を12月31日に変更し、事業年度を1月から12月までとしております。このため、変更初年度の2021年度は、事業年度が4月から12月までの9か月となりますが、決算説明会資料は、「短信報告ベースで作成した資料」と、1月から12月の暦年で試算した「プロフォーマベースで作成した資料」の2つで構成しており、本年4月～6月と、前年の同期間を比較した、プロフォーマベースでの数値を示しています。
- ・前年に感染症が発生した影響から、昨年5月を底に、回復してきており、航空事業、海運事業が堅調に推移したことなどから、増収増益となりました。一方、国内における回復は緩やかで、全体的な貨物取扱数量は、感染症発生前の水準までは戻っていない状況にあり、前年の緊急貨物輸送扱い等の減少も見られることから、外注費を中心としたコストコントロールによる利益率の向上、中長期的な視点では、経営計画に掲げる「コア事業の成長戦略」および「日本事業の強靱化戦略」による収益基盤の拡大強化に取り組むことが重要と考えています。

II. 2021年12月期 1月～6月業績(プロフォーマベース)

We Find the Way
NIPPON EXPRESS

12ヶ月換算ベース

B 2021年12月期 1月～6月実績

概要(連結)

(単位:億円、%)

項目	今期実績 (2021年1月～6月)	前年実績 (2020年1月～6月)	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
売上高	11,189	9,831	1,358	13.8
営業利益	484	217	266	122.6
営業利益率	4.3	2.2	—	—
経常利益	508	160	347	216.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	273	116	156	134.7
海外売上高	2,896	1,980	916	46.3

* 2021年1月～3月の海外セグメント当期純利益は、決算期変更に伴い利益剰余金として68億円、取り込んでおります。

(億円未満切捨て)

II. 2021年12月期 1月～6月業績(プロフォーマベース)

12ヶ月換算ベース

C 日本・海外別実績 (調整額含まず)

(単位: 億円、%)

セグメント	項目	今期実績 (2021年1月～6月)	前年実績 (2020年1月～6月)	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本計	売上高	9,191	8,520	670	7.9
	セグメント利益	375	217	158	72.9
海外計	売上高	2,896	1,980	916	46.3
	セグメント利益	179	64	114	177.6

(億円未満切捨て)

海外売上高比率

25.9%

II. 2021年12月期 1月～6月業績(プロフォーマベース)

We Find the Way
NIPPON EXPRESS

12ヶ月換算ベース

D セグメント別実績

(単位:億円、%)

セグメント	項目	今期実績 (2021年1月～6月)	前年実績 (2020年1月～6月)	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本	売上高	6,565	5,683	881	15.5
	セグメント利益	282	128	154	120.5
米州	売上高	497	373	124	33.4
	セグメント利益	32	△0	32	—
欧州	売上高	693	522	170	32.7
	セグメント利益	29	4	25	516.1
東アジア	売上高	926	592	333	56.3
	セグメント利益	50	28	22	80.0
南アジア・ オセアニア	売上高	778	492	286	58.2
	セグメント利益	66	31	34	108.1
警備輸送	売上高	345	348	△3	△0.9
	セグメント利益	△2	△3	1	—
重量品建設	売上高	219	240	△21	△9.0
	セグメント利益	25	26	△0	△3.3
物流 サポート	売上高	2,060	2,247	△186	△8.3
	セグメント利益	69	66	3	4.7

(億円未満切捨て)

参考資料

セグメント別実績比較(2021年1月～3月VS4月～6月)

12ヶ月換算ベース

(単位: 億円、%)

セグメント	項目	2021年4月～6月 実績	2021年1月～3月 実績	増減額 (対1月～3月)	増減率 (対1月～3月)
日本	売上高	3,266	3,299	△33	△1.0
	セグメント利益	115	166	△51	△30.7
米州	売上高	267	230	36	15.8
	セグメント利益	19	12	6	55.2
欧州	売上高	367	325	42	13.0
	セグメント利益	17	12	4	32.1
東アジア	売上高	459	466	△6	△1.5
	セグメント利益	17	33	△15	△47.5
南アジア・ オセアニア	売上高	383	394	△10	△2.7
	セグメント利益	29	36	△7	△19.9
警備輸送	売上高	171	174	△3	△2.0
	セグメント利益	0	△3	3	—
重量品建設	売上高	123	95	28	29.6
	セグメント利益	16	9	6	65.2
物流 サポート	売上高	797	1,263	△466	△36.9
	セグメント利益	17	51	△34	△65.9
合計額 (調整額含む)	売上高	5,450	5,738	△288	△5.0
	利益計	201	283	△82	△29.0

*2021年1月～3月の実績数値は、21年1月～3月海外セグメント実績を連結処理した数値であり、
2021年3月期決算数値とは異なります。監査を予定しない参考数値となります。

(億円未満切捨て)

・2021年1月～3月と、4月～6月累計の各セグメントの推移を示しています。合計で大きく減収減益となっていますが、減収の主な要因は、ロジスティクスセグメントについては、日本で、季節的要因による影響、半導体不足に起因した自動車産業関連等の航空輸出扱いでの一時的な影響や、緊急貨物輸送扱い等の減少です。

東アジアについては、精密機器関連のスポットでの航空輸出扱いの反動減が影響し、物流サポートセグメントについては、日通商事のリース事業分社化による売上減が主な要因です。また、減益については、上記に記載した減収に伴うものに加えて、決算期変更に伴い、固定資産税の四半期単位での費用処理額増加が主な要因です。なお、日通商事のリース事業分社化については、日通リース&ファイナンスの当社持分49%を持分法による投資利益に計上しています。

参考資料

セグメント別実績比較(2021年・2020年1月～3月)

12ヶ月換算ベース

(単位: 億円、%)

セグメント	項目	今期実績 (2021年1月～3月)	前年実績 (2020年1月～3月)	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本	売上高	3,299	2,950	348	11.8
	セグメント利益	166	104	62	59.7
米州	売上高	230	205	25	12.2
	セグメント利益	12	△0	12	-
欧州	売上高	325	274	50	18.6
	セグメント利益	12	2	10	397.0
東アジア	売上高	466	265	200	75.6
	セグメント利益	33	5	28	560.8
南アジア・ オセアニア	売上高	394	218	175	80.4
	セグメント利益	36	7	29	412.0
警備輸送	売上高	174	179	△5	△2.8
	セグメント利益	△3	4	△7	△169.0
重量品建設	売上高	95	109	△13	△12.7
	セグメント利益	9	11	△1	△13.4
物流 サポート	売上高	1,263	1,229	33	2.7
	セグメント利益	51	38	13	34.2
合計額 (調整額含む)	売上高	5,738	5,072	666	13.1
	利益計	283	147	135	91.8

*2021年1月～3月の実績数値は、21年1月～3月海外セグメント実績を連結処理した数値であり、
2021年3月期決算数値とは異なります。監査を予定しない参考数値となります。

(億円未満切捨て)

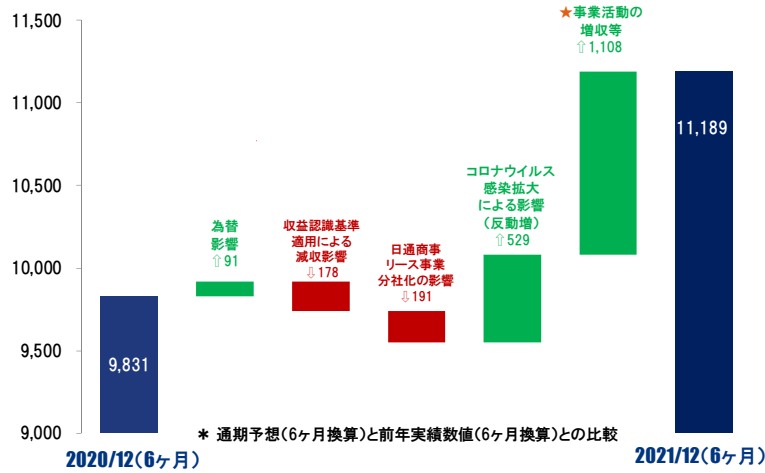
II. 2021年12月期 1月～6月業績(プロフィールベース)

E 売上高・営業利益増減内訳 * 期間を1月～6月として国内・海外計の6ヶ月前同比較

12ヶ月換算ベース

1. 売上高

(億円)



★事業活動による増減等セグメント内訳

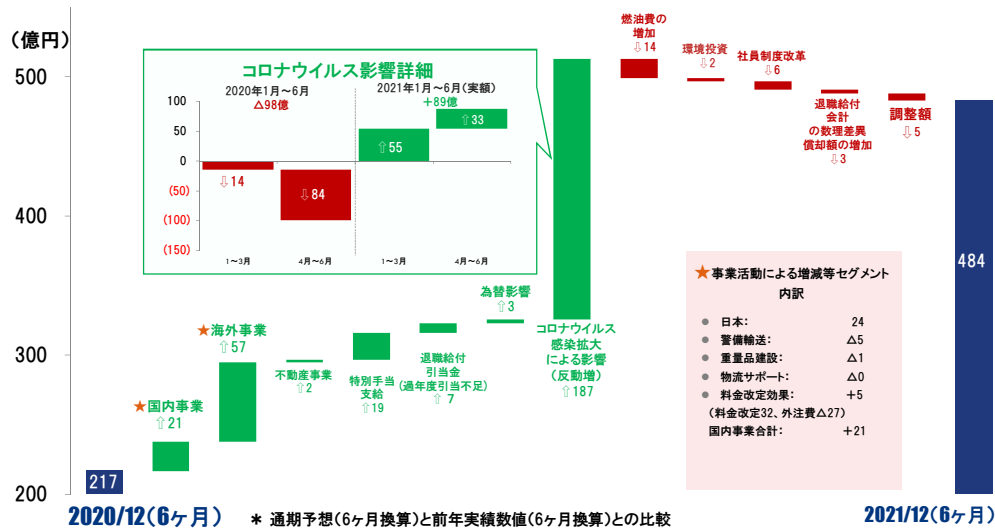
● 日本:	596
● 海外合計:	618
● 警備輸送:	△12
● 重量品建設:	△26
● 物流サポート:	160
● 調整:	△228

II. 2021年12月期 1月～6月業績(プロフォーマベース)

E 売上高・営業利益増減内訳 * 期間を1月～6月として国内・海外計の6ヶ月前同比較

12ヶ月換算ベース

2. 営業利益



Ⅲ. 2021年12月期 業績予想 A. 短信ベース

III-A 短信ベース

概要(連結)

1 2021年12月期通期予想

(単位:億円、%)

項目	通期予想 (国内・海外: 2021年4月~12月) * 財務報告ベース	前回 (2021年4月20日発表)	差額	2021/3期 実績	差額
売上高	16,500	15,600	900	20,791	—
営業利益	560	560	—	781	—
営業利益率	3.4	3.6	—	3.8	—
経常利益	580	580	—	812	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	390	390	—	561	—
海外売上高	4,255	3,766	489	4,537	—

(億円未満切捨て)

III-A 短信ベース

短信ベース

2 日本・海外別予想（調整額含まず）

（単位：億円、％）

セグメント	項目	通期予想	2021/3期 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本計	売上高	13,151	17,757	—	—
	セグメント利益	486	699	—	—
海外計	売上高	4,255	4,537	—	—
	セグメント利益	203	222	—	—

（億円未満切捨て）

海外売上高比率
（連結売上高に占める
海外売上高の比率）

25.8％（中間目標：23.1％）

III-A 短信ベース

短信ベース

3 セグメント別予想

(単位:億円、%)

セグメント	項目	通期予想	2021年度 上期予想	2021年度 下期予想	2021/3期 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本	売上高	9,704	6,411	3,293	12,128	—	—
	セグメント利益	376	221	155	519	—	—
米州	売上高	843	557	286	781	—	—
	セグメント利益	42	32	10	4	—	—
欧州	売上高	1,045	696	349	1,171	—	—
	セグメント利益	44	28	16	34	—	—
東アジア	売上高	1,303	895	408	1,436	—	—
	セグメント利益	43	30	13	84	—	—
南アジア・ オセアニア	売上高	1,064	748	316	1,147	—	—
	セグメント利益	74	56	18	98	—	—
警備輸送	売上高	515	343	172	692	—	—
	セグメント利益	8	6	2	△9	—	—
重量品建 設	売上高	370	254	116	458	—	—
	セグメント利益	43	28	15	52	—	—
物流 サポート	売上高	2,562	1,650	912	4,478	—	—
	セグメント利益	59	36	23	136	—	—

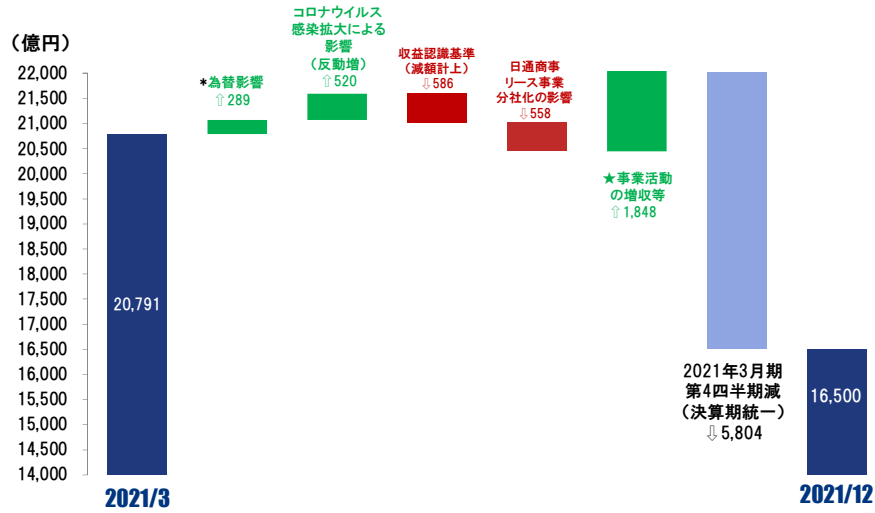
(億円未満切捨て)

III-A 短信ベース

短信ベース

4 売上高・営業利益増減内訳

① 売上高



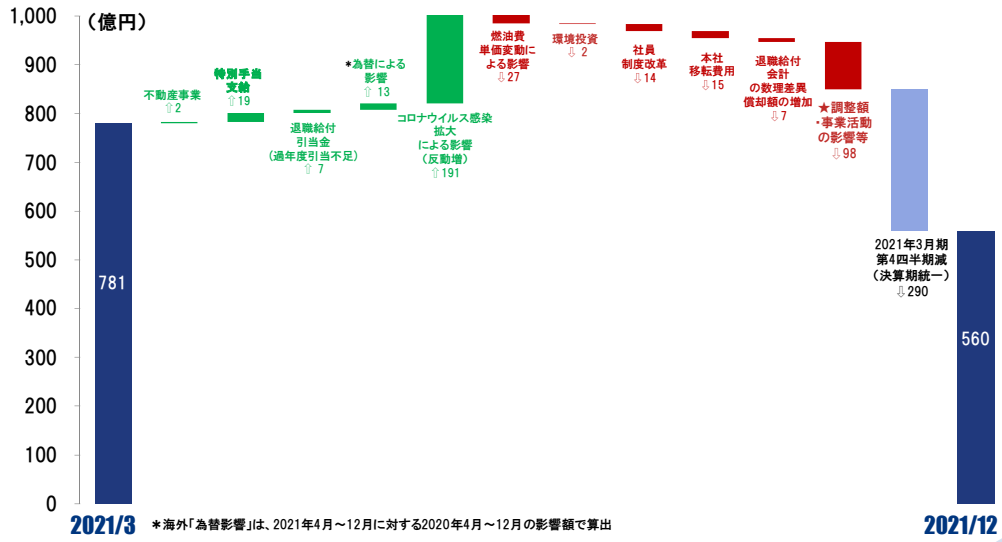
*海外「為替影響」は、2021年4月～12月に対する2020年4月～12月の影響額で算出

III-A 短信ベース

短信ベース

4 売上高・営業利益増減内訳

②. 営業利益



Ⅲ. 2021年12月期 業績予想 B.プロフォーマベース

III-B プロフォーマベース

(単位: 億円、%)

1 2021年12月期通期予想(期間: 2021年4月~12月)

9ヶ月換算ベース

項目	今期予想 2021年4月~12月 (8/13発表)	前回予想 (4/28発表)	差額	2020年 4月~12月 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
売上高	16,500	15,600	900	15,450	1,049	6.8
営業利益	560	560	—	581	△21	△3.7
営業利益率	3.4	3.6	—	3.8	-	-
経常利益	580	580	—	617	△37	△6.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	390	390	—	486	△96	△19.9
海外売上高	4,255	3,766	489	3,572	682	19.1

(億円未満切捨て)

- ・2021年12月期、4月~12月の9カ月間の連結業績予想についてです。現時点での状況、見通しを総合的に勘案し、通期業績予想の修正を行っており、4月28日の通期予想と比較して、売上高を900億円上方修正し、営業利益以下を据え置きとしました。
- ・売上高につきましては、国際貨物の輸送需要の伸長により、上方修正しました。一方、営業利益については、ロジスティクス・日本セグメントは、1Qにおける利用運送費、燃油費等の仕入単価の上昇により、前回の業績予想数値を下回るものの、ロジスティクスの海外が、これを吸収すると見込まれ、営業利益以下の各利益を据え置きとしました。

III-B プロフォーマベース

(単位: 億円、%)

1 2021年12月期通期予想(期間:2021年1月~12月)

12ヶ月換算ベース

項目	今期予想 (8/13発表)	2020/12期 実績	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)	前回予想 (4/28発表)	増減額 (増減率)
売上高	22,238	20,522	1,716	8.4	21,400	838 (3.9)
営業利益	843	729	113	15.6	830	13 (1.6)
営業利益率	3.8	3.6	—	—	3.9	—
経常利益	853	692	161	23.3	870	△16 (△1.9)
親会社株主に帰属する 当期純利益	511	503	7	1.5	530	△18 (△3.5)
海外売上高	5,672	4,537	1,135	25.0	5,247	425

項目	2021/12 上期実績	2021/12 下期予想
売上高	11,189	11,049
営業利益 (営業利益率)	484 (4.3)	358 (3.2)

* 通期予想(12ヶ月換算)と前年実績数値(12ヶ月換算)との比較

* 2021年1月~3月の海外セグメント当期純利益は、決算期変更に伴い利益剰余金として68億円、取り込んでおります。

(億円未満切捨て)

- ・2021年12月期、1月~12月の12カ月間の連結業績予想になります。1月~3月の売上高および営業利益については、前年度末の決算説明会において、試算値として、それぞれ、5,800億円、270億円としていましたが、確定値は、売上高5,738億円、営業利益283億円となりましたので、1月~3月を、同数値に修正して作成しています。なお、海外セグメントの1月~3月の純利益等を今回の決算処理にて、利益剰余金に組み入れを行っています。

III-B プロフォーマベース

12ヶ月換算ベース

2 日本・海外別予想（調整額含まず）

（単位：億円、％）

セグメント	項目	今期実績 (2021年1月～12月)	前年実績 (2020年1月～12月)	増減額 (前年比)	増減率 (前年比)
日本計	売上高	17,983	17,393	589	3.4
	セグメント利益	711	632	78	12.4
海外計	売上高	5,672	4,537	1,135	25.0
	セグメント利益	298	222	76	34.4

（億円未満切捨て）

海外売上高比率

25.5%

III-B プロフォーマベース

(単位:億円、%)

3 セグメント別予想

12ヶ月換算ベース

セグメント	項目	上期実績 (1月~6月)	下期予想(7月~12月)			通期予想(1月~12月)				
			2021/12 今回予想	2020/12 前年実績	増減額	2021/12 今回予想	2020/12 前年実績	増減額	2021/12 前回予想	増減額
日本	売上高	6,565	6,437	6,095	342	13,003	11,779	1,224	12,858	145
	セグメント利益	282	260	329	△69	542	457	85	576	△33
米州	売上高	497	575	408	167	1,073	781	292	1,021	52
	セグメント利益	32	22	5	17	54	4	49	38	16
欧州	売上高	693	677	649	28	1,370	1,171	199	1,340	30
	セグメント利益	29	26	29	△2	56	34	22	52	4
東アジア	売上高	926	843	843	△0	1,769	1,436	332	1,558	211
	セグメント利益	50	25	56	△30	76	84	△8	68	8
南アジア・ オセアニア	売上高	778	680	655	24	1,458	1,147	311	1,328	130
	セグメント利益	66	44	66	△22	110	98	12	88	22
警備輸送	売上高	345	343	348	△4	689	697	△7	689	0
	セグメント利益	△2	7	2	4	4	△1	6	5	△0
重量品 建設	売上高	219	246	231	14	465	472	△7	465	0
	セグメント利益	25	26	26	△0	52	53	△0	54	△1
物流 サポート	売上高	2,060	1,764	2,197	△432	3,825	4,444	△619	3,657	168
	セグメント利益	69	41	56	△15	110	123	△12	114	△3

(億円未満切捨て)

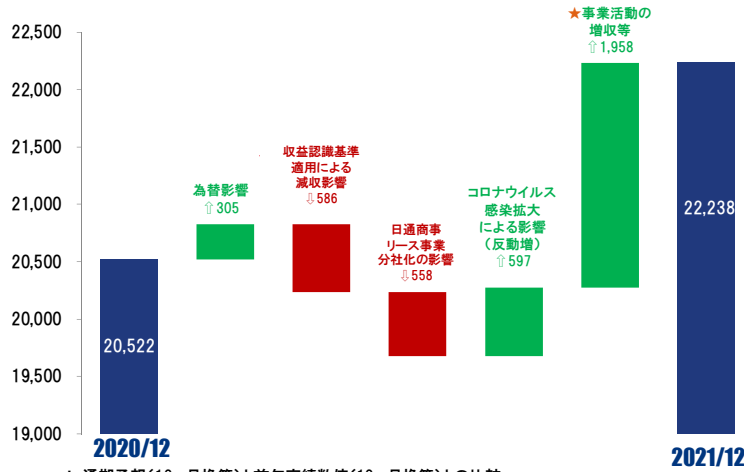
III-B プロフォーマベース

4 売上高・営業利益増減内訳 *期間を1月～12月として国内・海外計の12ヶ月前同比較

12ヶ月換算ベース

① 売上高

(億円)



★事業活動による増減等セグメント内訳

- 日本: 762
- 海外合計: 759
- 警備輸送: △20
- 重量品建設: △19
- 物流サポート: 484
- 調整: △8

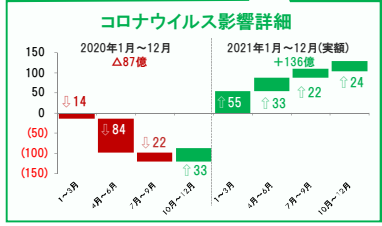
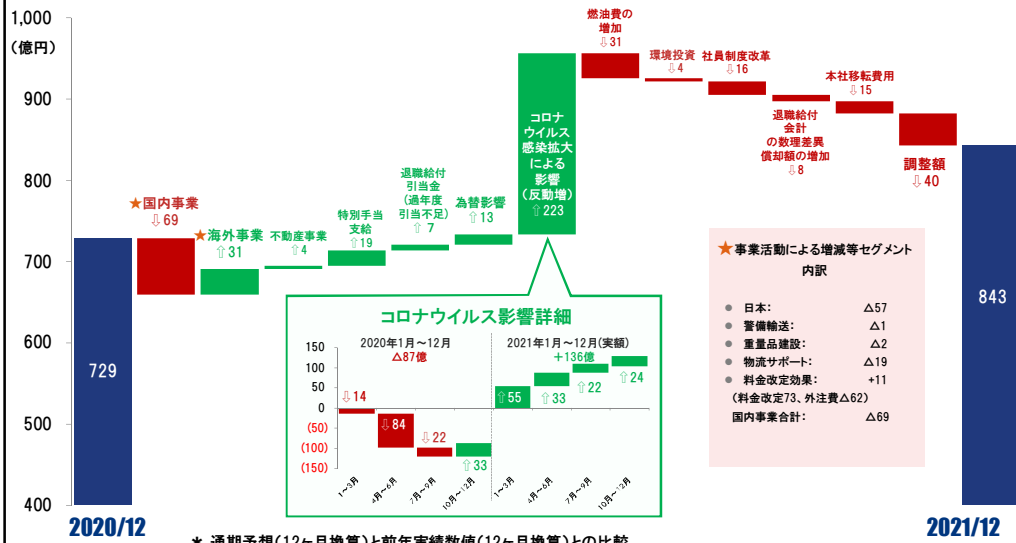
* 通期予想(12ヶ月換算)と前年実績数値(12ヶ月換算)との比較

III-B プロフォーマベース

4 売上高・営業利益増減内訳 * 期間を1月～12月として国内・海外計の12ヶ月前同比較

12ヶ月換算ベース

②. 営業利益



* 通期予想(12ヶ月換算)と前年実績数値(12ヶ月換算)との比較

III-C 2021年12月期 セグメント概況

12ヶ月換算ベース

1. 日本セグメント

(単位: 億円、%)

項目	2021/12期		前年同期対比		2021年4月～6月概況
	4月～6月実績	2020/12期	増減額	増減率	
売上高	3,266	2,733	532	19.5	鉄道・自動車事業は、回復基調にあるもののコロナ前の水準を下回る状況が続いた。航空輸出事業は、5月以降、半導体不足の影響がみられたものの荷動きは総じて前期に続き活発に推移。海運輸出は海上コンテナ不足の影響による運賃の上昇により増収・増益となった。
営業利益	115	23	92	390.0	
営業利益率	3.5	0.9	—	—	

項目	2021/12期 実績・見直し							特異要因
	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想	
売上高	3,299	3,266	6,565	3,144	3,293	6,437	13,003	・燃油費単価の影響:【営業利益】△12(6ヶ月)、△26(年間) ・社員制度改革に伴う費用増:【営業利益】△5(6ヶ月)、△14(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響: 【売上高】+290(6ヶ月)、+462(年間) 【営業利益】+124(6ヶ月)、+176(年間) ・退職給付引当金:【営業利益】+7(4月～6月、年間) ・特別手当支給の影響:【営業利益】+15(4月～6月、年間) ・環境投資:【営業利益】△2(6ヶ月)、△4(年間) ・不動産事業:【営業利益】+2(6ヶ月)、+4(年間) ・新本社移転費用:【営業利益】△15(年間) ・収益認識基準の影響【売上高】△5(6ヶ月)、△0(年間) ・退職給付数差異影響:【営業利益】△2(6ヶ月)、△6(年間)
営業利益	166	115	282	105	155	260	542	
営業利益率	5.1	3.5	4.3	3.3	4.7	4.0	4.2	
項目	2020/12期 実績							
売上高	2,950	2,733	5,683	2,877	3,217	6,095	11,779	
営業利益	104	23	128	114	214	329	457	
営業利益率	3.5	0.9	2.3	4.0	6.7	5.4	3.9	
項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)							
売上高	348	532	881	267	75	342	1,224	
営業利益	11.8	19.5	15.5	9.3	2.3	5.6	10.4	
営業利益	62	92	154	△9	△59	△69	85	
営業利益率	59.7	390.0	120.5	△8.0	△27.8	△21.0	18.7	

項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
	今回予想	前回予想	増減額	
売上高	13,003	12,858	145	コンテナ不足や港湾混雑等による海上輸送の混乱は継続。解消までには時間を要する模様。航空輸出事業では、半導体供給不足は解消に向かい、これに伴う生産活動の回復等により荷動きは堅調に推移すると見通す。鉄道・自動車の回復は低調に推移。売上高は増収、営業利益は利用費・燃油価格高騰の影響を受け、前年から減益を見通す。
営業利益	542	576	△33	
営業利益率	4.2	4.5	-	

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

32

- ・鉄道・自動車事業は、回復基調にあるものの、コロナ前の水準を下回る状況が続いています。一方、航空輸出は、5月以降、半導体不足の影響が見られますが、荷動きは総じて活発に推移しました。また、海運輸出は、海上コンテナ不足の影響による運賃の上昇などにより増収となり、以上の結果、増収増益となりました。
- 一方、通期の業績予想については、先程ご説明したとおり、売上高を上方修正し、営業利益については下方修正致しました。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

2. 米州セグメント

(単位: 億円、%)

1	項目	2021/12期		前年同期対比		2021年4月～6月概況			
		4月～6月実績	2020/12期	増減額	増減率	航空事業では自動車関連、また生鮮食品等の取扱い数量が回復、これに伴い自動車、倉庫配送ともに対前同から増収となった。倉庫配送では、衣料関連の新規案件を獲得、また昨年より取り組みを進めたコスト削減施策が寄与し前年から増収、増益となった。			
単四半期実績	売上高	267	167	99	59.5				
	営業利益	19	△0	19	—				
	営業利益率	7.3	△0.2	—	—				

2	項目	2021/12期実績・見通し								特異要因
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想	通期予想	
単四半期実績・予想	売上高	230	267	497	289	286	575	1,073	・為替影響(円安): 【売上高】△2(6ヶ月)、+17(年間) 【営業利益】+0(6ヶ月)、+0(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響: 【売上高】+29(6ヶ月)、+49(年間) 【営業利益】+11(6ヶ月)、+19(年間) ・特別手当支給:【営業利益】+0(4月～6月、年間)	
	営業利益	12	19	32	12	10	22	54		
	営業利益率	5.4	7.3	6.4	4.3	3.5	3.9	5.1		
2020/12期 実績										
売上高	205	167	373	187	221	408	781			
営業利益	△0	△0	△0	△0	5	5	4			
営業利益率	△0.0	△0.2	△0.1	△0.1	2.5	1.3	0.6			
前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)										
売上高	25	99	124	102	64	167	292			
営業利益	12	19	32	12	4	17	49			

3	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
業績予想推移	売上高	1,073	1,021	52	自動車関連顧客は第2四半期以降も堅調に推移、また新規業務獲得による増収効果に加え、コスト削減効果も継続し、対前年増収・増益を見通す。
	営業利益	54	38	16	
	営業利益率	5.1	3.7	-	

・米州は、自動車関連や生鮮食品等の航空扱いが回復しており、これに伴い、自動車、倉庫配送ともに対前同から増収となりました。加えて、アパレル関連の新規倉庫案件や、昨年より取り組みを進めたコスト削減施策が寄与し、増収増益。通期の業績予想についても、売上高、営業利益ともに上方修正いたしました。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

12ヶ月換算ベース

3. 欧州セグメント

(単位: 億円、%)

1	項目	2021/12期		前年同期対比	
		4月~6月実績	2020/12期	増減額	増減率
単四半期実績	売上高	367	247	119	48.4
	営業利益	17	2	14	652.7
	営業利益率	4.6	0.9	-	-

2021年4月~6月概況

自動車関連、電子部品関連等が堅調に推移し、またイタリア発、米国向け衣料関連のチャーター輸送の取り扱いがあり、前年から大きく増収となった。昨年取り組んだコスト削減の取り組みも寄与し増収・増益となった。

2	項目	2021/12期実績・見直し								特異要因	
		1月~3月	4月~6月	上期	7月~9月	10月~12月	下期予想	通期予想	通期実績		
単四半期実績・予想	売上高	325	367	693	328	349	677	1,370		・為替影響(円安): 【売上高】+44(6ヶ月)、+130(年間) 【営業利益】+0(6ヶ月)、+2(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響: 【売上高】+93(6ヶ月)、+91(年間) 【営業利益】+30(6ヶ月)、+30(年間) ・特別手当支給:【営業利益】+0(4月~6月、年間)	
	営業利益	12	17	29	10	16	26	56			
	営業利益率	4.0	4.6	4.3	3.3	4.6	4.0	4.1			
		2020/12期実績									
	項目	1月~3月	4月~6月	上期	7月~9月	10月~12月	下期	通期			
	売上高	274	247	522	300	348	649	1,171			
	営業利益	2	2	4	10	19	29	34			
	営業利益率	0.9	0.9	0.9	3.4	5.5	4.5	2.9			
		前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)									
	項目	1月~3月	4月~6月	上期	7月~9月	10月~12月	下期	通期			
	売上高	50	119	170	28	0	28	199			
		18.6	48.4	32.7	9.3	0.0	4.3	17.0			
	営業利益	10	14	25	0	△3	△2	22			
		397.0	652.7	516.1	9.3	△16.4	△7.5	67.0			

3	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
業績予想推移	売上高	1,370	1,340	30	自動車・電子部品・衣料関連の荷動きは7月以降も引き続き堅調に推移する見直し。海上輸送事業ではスペースひっ迫による利用費の高止まりが継続する見直し。対前年増収・営業利益は微減を見通す。
	営業利益	56	52	4	
	営業利益率	4.1	3.9	-	

- ・欧州は、自動車関連、電子部品関連等が堅調に推移し、イタリア発米国向けのアパレル関連の航空チャーター扱いもあり、増収増益。通期の業績予想についても、売上高、営業利益ともに上方修正いたしました。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

4. 東アジアセグメント

(単位: 億円、%)

1	項目	2021/12期		前年同期対比		2021年4月～6月概況	
		4月～6月実績	2020/12期	増減額	増減率		
単四半期実績	売上高	459	327	132	40.6	航空輸出貨物の取扱数量の増加、自動車運送の取扱数量の回復、海上運賃単価の上昇により増収となる。特に中欧貨物列車の取扱いは大きく伸長した。昨年のコロナウイルス感染拡大からの回復により大きく増収となるものの、航空利用費高騰の影響により減益となった。	
	営業利益	17	23	△5	△24.5		
	営業利益率	3.8	7.1	—	—		

2	項目	2021/12期実績・見直し							特異要因
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想	
単四半期実績・予想	売上高	466	459	926	435	408	843	1,769	・為替影響(円安): 【売上高】+34(6ヶ月)、+110(年間) 【営業利益】+1(6ヶ月)、+6(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響: 【売上高】+4(6ヶ月)、△50(年間) 【営業利益】△7(6ヶ月)、△18(年間) ・特別手当支給:【営業利益】+0(4月～6月、年間)
	営業利益	33	17	50	12	13	25	76	
	営業利益率	7.1	3.8	5.5	2.9	3.2	3.0	4.3	
2020/12期実績									
項目	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期		
売上高	265	327	592	291	552	843	1,436		
営業利益	5	23	28	16	39	56	84		
営業利益率	1.9	7.1	4.8	5.8	7.1	6.7	5.9		
前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)									
項目	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期		
売上高	200	132	333	143	△144	△0	332		
	75.6	40.6	56.3	49.1	△26.1	△0.1	23.2		
営業利益	28	△5	22	△4	△26	△30	△8		
	560.8	△24.5	80.0	△25.6	△67.0	△54.6	△9.7		

3	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
業績予想推移	売上高	1,769	1,558	211	経済活動の回復により航空輸出貨物取扱数量の伸長が継続するものの、前期クリスマス商戦のスポット案件の反動減の影響は大きく、加えて航空利用費の高騰の影響により、売上高は前年並み、営業利益は減益を見通す。
	営業利益	76	68	8	
	営業利益率	4.3	4.4	-	

・東アジアは、航空輸出貨物の取扱いの増加や、自動車運送扱いの回復により増収となりましたが、前年好調であった航空チャーター輸送の反動減などから、1月～6月累計では増益ですが、1Qは、減益となりました。通期の業績予想については、航空輸出、自動車運送などの取扱増加により、売上高、営業利益ともに上方修正いたしました。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

5. 南アジア・オセアニアセグメント

(単位: 億円、%)

1	項目	2021/12期		前年同期対比		2021年4月～6月概況
		4月～6月実績	2020/12期	増減額	増減率	
単四半期実績	売上高	383	273	110	40.5	自動車産業関連を中心に航空輸出貨物の取り扱い引き続き堅調に推移、海上輸送はコンテナ不足の混乱により、運賃単価が上昇する中、取扱数量が増加したこと等により、増収増益となった。
	営業利益	29	24	4	19.6	
	営業利益率	7.7	9.1	-	-	

2	項目	2021/12期実績・見直し								特異要因	
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想	通期実績		
単四半期実績・予想	売上高	394	383	778	364	316	680	1,458	1,110	・為替影響(円安): 【売上高】+15(6ヶ月)、+48(年間) 【営業利益】+1(6ヶ月)、+3(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響: 【売上高】+79(6ヶ月)、△20(年間) 【営業利益】+18(6ヶ月)、△0(年間) ・特別手当支給:【営業利益】+0(4月～6月、年間)	
	営業利益	36	29	66	26	18	44	110	110		
	営業利益率	9.4	7.7	8.5	7.2	5.7	6.5	7.6	9.9		
		2020/12期 実績									
	項目	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期			
	売上高	218	273	492	294	360	655	1,147			
	営業利益	7	24	31	27	39	66	98			
	営業利益率	3.3	9.1	6.5	9.4	10.8	10.2	8.6			
		前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)									
	項目	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期			
	売上高	175	110	286	69	△44	24	311			
		80.4	40.5	58.2	23.6	△12.4	3.8	27.1			
	営業利益	29	4	34	△1	△21	△22	12			
		412.0	19.6	108.1	△4.6	△54.0	△33.6	12.3			

3	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
業績予想推移	売上高	1,458	1,328	130	新型コロナウイルス感染拡大から荷動きの回復は継続、自動車・電機・電子関連は堅調に推移する見直し。売上高は増収となるも、航空旅客便の回復とともに運賃単価は平常化に向かい、航空輸出事業の収益は縮小することで減益を見通す。
	営業利益	110	88	22	
	営業利益率	7.6	6.6	-	

- ・南アジアは、自動車産業関連を中心に、航空輸出が引き続き堅調に推移し海上輸送も、取扱数量が増加したこと等により、増収増益。通期の業績予想を、売上高、営業利益ともに上方修正しております。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

12ヶ月換算ベース

6. 警備輸送セグメント

(単位: 億円、%)

①	項目	2021/12期		前年同期対比		2021年4月～6月概況	
		4月～6月実績	2020/12期	増減額	増減率		
単四半期実績	売上高	171	169	1	1.1	昨年コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた集配金業務は回復。一部顧客で設定便の減便による減収要素があったものの、ビジネスセンター業務の新規獲得、設定便の料金改定が寄与し、売上げ高は昨年並みとなった。営業利益では、前年度決算において減損処理を行ったことから増益となる。	
	営業利益	0	△8	9	-		
	営業利益率	0.4	△4.9	-	-		

②	項目	2021/12期実績・見通し							特異要因
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想	
単四半期実績・予想	売上高	174	171	345	171	172	343	689	・燃油費単価の影響:【営業利益】△2(6ヶ月)、△4(年間) ・社員制度改革に伴う費用増:【営業利益】△0(6ヶ月)、△0(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響 【売上高】+9(6ヶ月)、+12(年間) 【営業利益】+5(6ヶ月)、+8(年間) ・特別手当支給の影響【営業利益】+2(4月～6月、年間) ・退職給付数理差異影響:【営業利益】△0(6ヶ月)△1(年間)
	営業利益	△3	0	△2	5	2	7	4	
	営業利益率	△1.7	0.4	△0.7	3.1	1.2	2.1	0.7	
	項目	2020/12期実績							
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期	
	売上高	179	169	348	173	174	348	697	
	営業利益	4	△8	△3	△0	3	2	△1	
	営業利益率	2.5	△4.9	△1.1	△0.6	1.9	0.7	△0.2	
	項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)							
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期	
	売上高	△5	1	△3	△1	△2	△4	△7	
		△2.8	1.1	△0.9	△1.1	△1.7	△1.4	△1.1	
	営業利益	△7	9	1	6	△1	4	6	
		△169.0	-	-	-	△38.6	219.5	-	

③	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
業績予想推移	売上高	689	689	0	コロナウイルス感染拡大の影響は、第1四半期並みで推移する見通し。売上高は微減、営業利益は増益を見通す。
	営業利益	4	5	△0	
	営業利益率	0.7	0.7	-	

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

37

- ・警備輸送は、2021年4月以降、感染症による直接的なマイナス影響は、ほぼなくなっております。一方、集配金業務について、一部顧客で設定便の減便があり、銀行等のビジネスセンター業務の新規獲得などもあります。1Qの売上高は対前同+1.1%に留まっており、1月～6月では減収となりました。営業利益については、前年度決算において減損処理を行ったこと等の影響から増益となりました。こうした状況を踏まえ、通期業績予想では、売上高、営業利益とも据え置き(9か月見通し)と致しました。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

12ヶ月換算ベース

7. 重量品建設セグメント

(単位: 億円、%)

① 単四半期 実績	項目	2021/12期	前年同期対比			2021年4月～6月概況
		4月～6月 実績	2020/12期	増減額	増減率	
	売上高	123	131	△7	△6.0	風力発電は好調に推移したものの、昨年の大型案件の反動減からプラントメンテナンス等の取扱いが減少し、減収、利益は前年並みとなった。
	営業利益	16	15	0	4.1	
	営業利益率	13.1	11.8	-	-	

② 単四半期 実績・予想	項目	2021/12期実績・見通し								特異要因	
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想	通期予想		
	売上高	95	123	219	130	116	246	465		・燃油費単価の減少:【営業利益】△0(6ヶ月)、△0(年間) ・社員制度改革に伴う費用増: 【営業利益】△0(6ヶ月)、△0(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響: 【売上高】+5(6ヶ月)、+11(年間) 【営業利益】+0(6ヶ月)、+2(年間) ・特別手当支給の影響:【営業利益】+0(4月～6月、年間) ・退職給付数差異影響:【営業利益】△0(6ヶ月)、△0(年間)	
	営業利益	9	16	25	11	15	26	52			
	営業利益率	10.2	13.1	11.8	9.1	12.9	10.9	11.3			
	項目	2020/12期 実績									
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期			
	売上高	109	131	240	119	112	231	472			
	営業利益	11	15	26	12	14	26	53			
	営業利益率	10.3	11.8	11.1	10.7	12.6	11.6	11.4			
	項目	前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)									
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期			
	売上高	△13	△7	△21	11	3	14	△7			
		△12.7	△6.0	△9.0	9.5	2.8	6.2	△1.5			
	営業利益	△1	0	△0	△0	0	△0	△0			
		△13.4	4.1	△3.3	△6.4	5.3	△0.3	△1.8			

③ 業績予想 推移	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
	売上高	465	465	0	火力工事扱い、IT設備工事は堅調に推移するものの、プラントメンテナンス工事扱い、発電所工事は低調に推移する見込み。売上高は微増・営業利益は、前年並みを見通す。新型コロナウイルス感染拡大の影響は売上高、営業利益ともに軽微の見込み。
	営業利益	52	54	△1	
	営業利益率	11.3	11.6	-	

・重量品建設は、風力発電は好調に推移しておりますが、昨年の大型案件の反動減から、プラントメンテナンス等の取扱いが減少し、1月～6月累計では、減収減益となりました。なお、減収幅に対して、減益幅が小さいのは、追加工事の発生によるものです。通期業績予想については、工事計画の現況から、売上高を据え置き、営業利益を下方修正しております。

III-C 2021年12月期 セグメント概況

12ヶ月換算ベース

8. 物流サポートセグメント

(単位: 億円、%)

1	項目	2021/12期		前年同期対比		2021年4月～6月概況	
		4月～6月実績	2020/12期	増減額	増減率		
単四半期実績	売上高	797	1,017	△219	△21.6	リース事業分社化・収益認識基準の変更により売上高は減収となった。昨年低調であったLS事業部の取扱いの回復、石油販売事業は単価上昇により売上高は前年を上回った。営業利益では、リース事業の分社化により減益となった。	
	営業利益	17	27	△10	△36.3		
	営業利益率	2.2	2.7	—	—		

2	項目	2021/12期実績・見直し								特異要因
		1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期予想	通期予想		
単四半期実績・予想	売上高	1,263	797	2,060	852	912	1,764	3,825	・社員制度改革に伴う費用増:【営業利益】△0(6ヶ月)、△0(年間) ・新型コロナウイルス感染拡大の影響 【売上高】+18(6ヶ月)、+41(年間) 【営業利益】+2(6ヶ月)、+5(年間) ・特別手当支給の影響【営業利益】+1(4月～6月、年間) ・収益認識基準の影響【売上高】△173(6ヶ月)、△586(年間) ・日通商事リース事業分社化影響 【売上高】△191(6ヶ月)、△558(年間)	
	営業利益	51	17	69	18	23	41	110		
	営業利益率	4.1	2.2	3.4	2.2	2.5	2.3	2.9		
		2020/12期実績								
	項目	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期		
	売上高	1,229	1,017	2,247	1,058	1,138	2,197	4,444		
	営業利益	38	27	66	26	30	56	123		
	営業利益率	3.1	2.7	2.9	2.5	2.7	2.6	2.8		
		前年同期対比(上段:増減額 / 下段:増減率)								
	項目	1月～3月	4月～6月	上期	7月～9月	10月～12月	下期	通期		
	売上高	33	△219	△186	△206	△226	△432	△619		
		2.7	△21.6	△8.3	△19.5	△19.9	△19.7	△13.9		
	営業利益	13	△10	3	△7	△7	△15	△12		
		34.2	△36.3	4.7	△29.9	△25.4	△27.5	△10.2		

3	項目	通期業績予想比較			下期見直し概況
		今回予想	前回予想	増減額	
業績予想推移	売上高	3,825	3,657	168	リース事業分社化、収益認識基準による減収影響により大幅な減収となる。石油部門の単価上昇に加え、LS事業部、物流機器・物流商品は、昨年のコロナウイルス感染拡大の反動増となるも、前年のスポット案件の反動減に加えリース部門分社化の影響により、営業利益では減益を見通す。
	営業利益	110	114	△3	
	営業利益率	2.9	3.1	-	

・物流サポートは、リース事業分社化および収益認識基準の変更により、1Qは、減収減益となりました。なお、石油部門の単価上昇に加えて、昨年低調であったLS事業部の取扱いの回復により、1月～3月は増収増益、1月～6月累計では、減収増益となっております。また、石油単価は上昇しておりますが、利幅は予想を下回る状況にあることから、通期業績予想については、売上高を上方、営業利益については下方修正しました。

IV. 経営計画の取り組み(進捗)

IV.経営計画の取り組み

A 日通グループ経営計画2023 KPI <コア事業の成長戦略>

項目 (売上高)	国内*1					海外				
	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月 見通し	進捗率	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月 見通し	進捗率
電機・電子産業の取組強化	539億円	444億円	21%	970億円	56%	798億円	529億円	51%	1,375億円	58%
自動車産業の取組強化	435億円	283億円	54%	740億円	59%	487億円	301億円	62%	850億円	57%
アパレル産業の取組強化	78億円	73億円	7%	165億円	47%	324億円	226億円	43%	550億円	59%
医薬品産業の取組強化	77億円	73億円	5%	150億円	51%	103億円	57億円	79%	185億円	56%
半導体関連産業の取組強化	123億円	92億円	34%	215億円	57%	63億円	40億円	58%	110億円	57%

項目	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月予想	進捗率
海上フォワーディングの拡大*2	37万TEU	31万TEU	17%	86.0万TEU	43%
航空フォワーディングの拡大*2	47万t	33万t	43%	86.5万t	54%

項目 (売上高)	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月予想	進捗率
非日系顧客の拡大 (GAM・GTA*3)	304億円	199億円	53%	440億円	69%

*1. 国内実績、KPI数値は、日本通運個別のみ。 *2. 実績、増減率は四捨五入し記載
*3. GAMとは、GAM(Global Account Management) のこと。GTAとは、GTA(Global Target Accounts) のこと。

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

41

コア事業の成長戦略について、重点産業に定めた取扱い実績、および年間見通しは、資料の通りです。2021年1月～6月の売上実績は、世界経済の回復もあり、国内外ともに5産業全て前同を上回り、2020年度末決算でお示した2021年の見通しについては、半期を終えた時点で、「国内・アパレル産業」を除いて50%を超える進捗となっております。なお、国内アパレル産業についても、新たなハイファッション関連業務を獲得していることに加え、EC関連業務の取込なども積極的に進めており、見通し達成に向けてキャッチアップを図ります。

次に、当社が特に注力している、自動車・半導体・医薬品産業への取組みについて、ポイントをご説明致します。最初に「自動車産業」については、地球規模の環境問題への対応が急務となり、加速度的に進む脱炭素化に向け、各自動車メーカーは、“デファクト・スタンダード”を目指し技術開発にしのぎを削っています。当社は、自動車産業全体の動向に加え、各メーカーのグローバル戦略を理解した上で、的確な経営判断を行い、戦略的なアクションを取ります。

一つの例として、多くの日系サプライヤー企業が進出する「中東欧地域」における物流サービス拡充のため、当社は既にスロバキアに支店を開設しました。今後、ハンガリー、チェコ、スロバキア、さらにはセルビアといった「中東欧地域」が、世界のEV産業の中心地となることを見据え、幅広い顧客ニーズに応えることができる体制を整えていきます。

次に「半導体産業」についてご説明致します。

現在、当社は、半導体の「生産物流」の取扱い拡大に向けて、国内半導体メーカーとプロジェクトを立ち上げ、工場内物流の改善や門前倉庫を活用した物流の効率化について提案しており、投資を含めたロジスティクス・プランニングを進めております。

半導体メーカーは、自前の物流会社を持っており、外部の物流会社は、その下請けで入るのが一般的ですが、当社では、メーカーと直接やり取りをし、最適な物流を提案・提供していくことを目指しております。今後、米中両陣営を基軸として、半導体のグローバルサプライチェーンが大きく変化する中で、各メーカーのグローバル戦略を深く理解し、お客様の真のニーズにお応えできる物流サービスを提供してまいります。

なお、当社では、スマートフォンや自動車向け半導体需要増を背景とした東アジア地域における増産、ならびに日本・米国をはじめとする各国の現地生産に向けた半導体メーカーの進出をビジネスチャンスと捉え、必要な情報を収集し、お客様へのご提案の準備を進めております。

3点目に、「医薬品産業」の取組みについてです。

今年2月、日本国内4拠点で医薬品専用倉庫が本格稼働し、新規事業として、日系大手製薬メーカーの取扱いを開始しております。立ち上げは順調に進み、これから取扱業務の拡大により、事業を軌道化する段階に入ります。既に外資大手顧客との契約も決定し、来年の5月に業務を開始する予定です。また日系ターゲット顧客については入札への参加に向け準備を進めております。さらには、日系医薬品メーカーも開発を急ぐコロナウイルス感染症のメッセンジャーRNAワクチン等の流通においても、当社のビジネス機会が見込まれます。

海外においても、GDP認証を取得した空港CFS拠点のさらなる展開を進めており、当社グローバルネットワークと高品質なフォワーディング商品を武器として、医薬品ビジネスの加速度的な拡大を期待しています。

IV.経営計画の取り組み

A 日通グループ経営計画2023 KPI <コア事業の成長戦略>

項目 (売上高)	国内*1					海外				
	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月 見通し	進捗率	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月 見通し	進捗率
電機・電子産業の取組強化	539億円	444億円	21%	970億円	56%	798億円	529億円	51%	1,375億円	58%
自動車産業の取組強化	435億円	283億円	54%	740億円	59%	487億円	301億円	62%	850億円	57%
アパレル産業の取組強化	78億円	73億円	7%	165億円	47%	324億円	226億円	43%	550億円	59%
医薬品産業の取組強化	77億円	73億円	5%	150億円	51%	103億円	57億円	79%	185億円	56%
半導体関連産業の取組強化	123億円	92億円	34%	215億円	57%	63億円	40億円	58%	110億円	57%
項目	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月予想	進捗率					
海上フォワーディングの拡大*2	37万TEU	31万TEU	17%	86.0万TEU	43%					
航空フォワーディングの拡大*2	47万t	33万t	43%	86.5万t	54%					
項目 (売上高)	2021年 1月～6月実績	2020年 1月～6月実績	前同増減率	2021年 1月～12月予想	進捗率					
非日系顧客の拡大 (GAM・GTA*3)	304億円	199億円	53%	440億円	69%					

*1. 国内実績、KPI数値は、日本通運個別のみ。 *2. 実績、増減率は四捨五入し記載
*3. GAMとは、GAM(Global Account Management) のこと。GTAとは、GTA(Global Target Accounts) のこと。

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

42

次に、事業軸として、航空・海運フォワーディング数量実績、および年間見通しは、資料に記載の通りです。

航空に関しては、半導体や電子機器、自動車関連などの貨物需要が堅調な一方、いまだ、旅客便の運航が正常化するまでには相当な時間がかかることが想定され、急増する輸送需要にスペースの供給が追いついていない状況にあります。このため、当社としては、引き続き、お客様、航空会社と密に情報交換し、「サプライチェーンを止めないためのスペース確保」に注力してまいります。

海運については、本年春以降、北米における港湾混雑による滞船・作業遅延が顕在化し、本船のスケジュール遅延が、アジア側の海上コンテナ不足に拍車をかける状況にあります。顧客のサプライチェーンにも更なる影響が出ており、この解消時期の見極めは困難ですが、少なくとも年内は継続するものと見ております。

こうした状況下、航空は、堅調な需要と、海運からの切替え需要も見込まれることから、少なくとも年内は堅調に推移し、2021年の見通しを達成する見込みです。また、海運は、海上コンテナ不足や運賃の高騰等の課題に対して、昨年設立した、利用船社の選定、集中購買等を行う「グローバルNVOCCセンター」の機能強化を中心に対応し、2021年見通しの達成を目指してまいります。

以上、コア事業の成長戦略について2点ご説明しましたが、「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」に向け、当社はグローバル市場をこれからの主戦場と捉え、その営業戦略の中核にグローバルアカウントマネジメントを据え、営業体制、組織の更なる強化を進めております。「顧客の考える価値」を見極め、顧客の組織における「意思決定のメカニズム」をしっかりと把握した上で、顧客ニーズに合った商品やサービスを提供する「マーケットイン」の発想をもった営業を展開することにより、引き続き「産業軸・事業軸・エリア軸」アプローチをもってコア事業の成長を図ってまいります。この取り組みは既に始まっており、詳細状況等については、事業説明会等を通じてご説明したいと考えております。

IV. 経営計画の取り組み

B 日本事業の強靱化戦略

主な取組項目

I. 収益性の改善

- ・日々のコストコントロールによる、社有戦力の最大限活用と外注費率減を継続中
- ・2021年度12月期第1四半期累計で売上高が増加（対前年+19.5%）する中、外注費率は対前年▲3.6ポイント
- ・社有戦力の最大限活用として、車両の稼働率アップを全課所に指示
- ・各ブロック・支店内で、簡単な車両マッチングツールを作成し、日々戦力活用を実施

II. 生産性の向上

- ・倉庫オペレーションの全体的レベルアップ
- ・全倉庫を対象にオペレーションのレベルアップを推進、重点取組対象108課所を指定し、生産性向上に取組中
- ・オペレーションの省力化、自動化も引き続き推進中
- ・オフィス業務の自動化・簡素化
- ・現場レベルでのRPAによる業務簡素化を推進継続
- ・6月末現在144業務を改善
- ・2021年12月までにEラーニングにて約600名を教育、推進者を増強

III. 陸海空融合の進化

- ・クロスモードセールスの推進
- ・既存顧客に対し、陸・海・空のあらゆるモードの深耕営業を行い、取引のすそ野を拡大

IV. ネットワーク商品の強化

- ・プロテクトBOXの拡販
- ・2020年7月販売開始、2021年4月リニューアル第1四半期累計実績4,610基
- ・内航コンテナ、鉄道コンテナの拡販
- ・脱炭素・BCP対応の長距離輸送商品「Sea & Rail」取扱数量対前年17.5%アップ
- ・引越事業の構造改革
- ・作業戦力、プランナー強化拡大
- ・「リモミ」をフル活用
- ・アロー便事業の強化推進
- ・外注費削減と積載率向上による生産性の向上により事業を強化

日本事業強靱化に向けて強力に推進していく

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

43

現在、日本事業の強靱化戦略として様々な取組みを進めておりますが、国内の輸送取扱数量の回復は緩やかであり、加えて前年の緊急貨物輸送扱い等の反動減もあり、引き続き、コスト構造の見直しは最重要事項であると考えています。

コストコントロールの状況については、社有戦力の最大限活用、稼働率の向上による外注費削減に取り組み、1Qでの単体の外注費率は37.2%で、対前年△3.6ポイントとなりました。なお、外注費率低減には、売上増加の内、航空、海運事業売上の増加と、同時に、関連する利用費も増加しており、この要素による影響があります。加えて、前年の数値にも特殊要素が多いため、この要素を控除し、2019年度の外注費率と比較する試算を行った結果、△0.5ポイント程度の低減となっており、コスト構造については、一定の改善が進んでいると分析しております。社有戦力の最大限活用と外注費削減は今後も取組みを強化してまいります。取扱数量の回復・拡大局面において、コストダウン以上の利益効果を発揮するものと考えています。

コストコントロールのほか、「オフィス業務の自動化・簡素化」、「ネットワーク商品の強化」等においては、資料記載のとおりの実績となっております。ネットワーク商品の強化では、マルチモード商品の強化をはじめ、総合力を活かした手法により幅広く取り組むとともに、倉庫オペレーション全般の生産性向上の取組みについては、重点取組対象として全国108課所を指定し、生産性向上への取組みを進めており、今後、その成果が出てくることを期待しています。

IV.経営計画の取り組み

C 間接部門コスト削減 進捗状況(2021年6月末時点)

日本事業の強靱化	2023年度目標	項目	2019年度実績 (対前同)	2020年度実績 (対前同)	2021年度実績 (4月~6月)	累計	2021年度目標 (4月~12月)
組織の大括り化・管理組織のスリム化	▲45億 (▲500名)	支店間接部門人員の再配置	▲11.0億 (▲124名)	▲14.0億 (▲156名)	—	▲33.2億 (▲371名)	—
		本社人員の再配置	—	▲8.2億 (▲91名)	—		▲0.7億 (▲8名)
事務プロセスの改革	▲50億	超勤 (事務系社員)	▲11.0億	▲13.2億	+1.9億	▲34.2億	▲4.7億
		人材派遣費 (事務系)	+1.5億	▲10.4億	▲3億		▲10.8億
合計	▲95億	合計	▲20.5億	▲45.8億	▲1.1億	▲67.4億	▲16.2億

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

44

間接部門コストの削減について纏めております。

支店組織の大きくり化・管理組織のスリム化については、2020年までに、371名の再配置を行い、2021年は、新体制を定着させ、全社的な効果波及を目指す期間と考えています。

また、事務プロセスの改革では、RPAや経理事務集中化などで現場事務の負担軽減に取り組んでおり、支店における超勤や人材派遣コストの削減として効果が現れると考えていますが、貨物の取扱数量の回復により、物量に連動する部分でリバウンドがあります。2021年は、この傾向が続くと予想しますが、事務集中化の対象業務拡大や、ペーパーレス化の一層の推進による生産性向上などの切り口から、新たな取り組みを開始、更に新たな施策も検討しており、経営計画最終年度の目標値△95億円は変更せず、その達成を目指してまいります。

IV.経営計画の取り組み

D グループブランドの導入

- ・急速な社会環境の変化や技術革新の進展に対応し、国内・海外のお客様に対し、より高度かつ高品質なサービスを提供するため、ブランド力強化の一環として、グループ統一のアイデンティティを導入。
 - ・現経営計画「日通グループ経営計画2023～非連続な成長“Dynamic Growth”～」で掲げる長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」を実現するための世界で競争優位性を築く、ブランド戦略活動の1つ。
 - ・グループブランドシンボルを新たに制定し、ホールディングス会社や中核事業会社のみならず、国内外のグループ会社において幅広く活用し、グループとしての一体感・グループとしての価値を最大化するためのシンボルとして活用する。
- ・適用開始日:2022年1月4日 ※ホールディングス体制移行日



【縦組みデザイン】



【横組みデザイン】

当社グループは、来年1月に予定するホールディングス体制移行に合わせ、グループ統一のブランドアイデンティティを新たに導入することを、先月7月16日に発表いたしました。

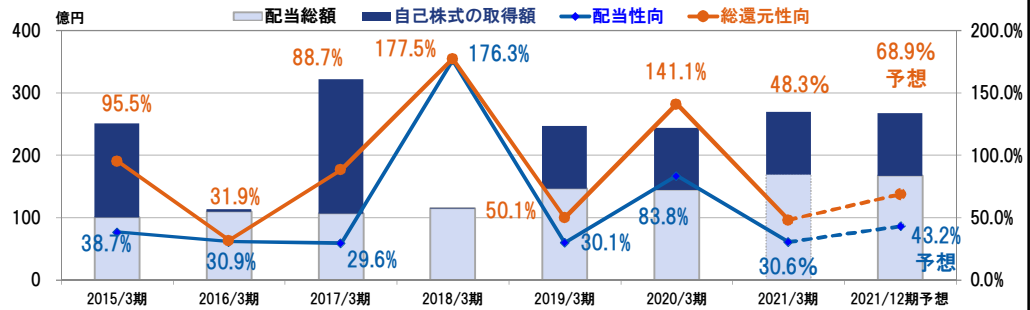
この目的は、急速な社会環境の変化や技術革新の進展に対応し、国内、海外のお客様に対し、より高度かつ高品質なサービスをご提供するため、ブランド力を強化することにあります。全ての戦略、施策が、長期ビジョン実現を志向するものとして、経営の舵は切られております。一方、日本の物流業の発展の歩みと共に、長い間ご愛顧いただいた当社の「マル通」マークを変えることは、当社グループにとっては、強い決意が必要な判断でしたが、このマークに込められてきた「誇りと責任」、「積み重ねてきた知恵と技」、「社会から頂いた信頼」をすべて「NX」というブランドに引き継ぎ、グローバル市場に展開してまいりたいと考えております。今回の「グループブランド導入」は、その決意の表れとご理解頂ければ幸甚です。

V. 株主還元

A 資本政策

- ROE 10%
- 配当性向 30%以上
- 総還元性向 50%以上(2019~2023年度累計)
- 自己資本比率 35%程度

B 各種実績推移



1株当たり配当額 (年間)	10	11	11	120*	155	155	185	185 (予想)
ROE	5.1	6.8	6.9	1.2	9.2	3.2	10.0	6.6(予想)

※ 2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株に併合いたしましたので、2018年3月期以降の配当額については、当該株式併合を考慮した金額で記載しております。
Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved. 2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

2021年12月期の株主還元についてですが、配当予想を、中間配当90円、期末配当95円、合計185円とし、2021年3月期と同額としております。今後も、安定配当とともに、経営計画に掲げた、配当性向30%以上、今次経営計画期間、5年累計での総還元性向50%以上を意識し、株主還元の充実に努めてまいります。

補足資料

本資料に掲載している情報は、各項目の傾向を示しておりますが、各種決算処理を行う前のデータを使用しているため、項目ごとの合計数値は、決算数値と異なる場合があります。当社事業の現況をご理解いただくための参考資料として作成しておりますので、その旨、ご承知おきください。

補足1:2021年12月期 1月~6月実績情報

外部環境の変化およびその他の変動要素

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (6ヶ月実績)	参考
燃油費単価変動 による影響	△ 14.4 億円 (費用増) (参考:△10.4億円/3ヶ月)	1ℓあたりの単価 (前期3ヶ月平均) <ul style="list-style-type: none"> 軽油 : 101.65円(74.90円) ガソリン : 144.42円(115.10円) 船舶重油 : 60.46円(45.50円)
為替による影響	売上高 + 91.1 億円 営業利益 + 3.6 億円	3ヶ月(4月~6月)平均為替レート※(前期3ヶ月平均) <ul style="list-style-type: none"> USD : 109.49円(107.60円) EUR : 131.96円(118.40円) HKD : 14.10円(13.80円) RMB : 16.96円(15.10円) <small>※「3ヶ月平均為替レート」は、参考値。決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</small>
環境投資	営業利益 △ 2.7 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 2.7億円

補足1:2021年12月期 1月~6月実績情報

外部環境の変化およびその他の変動要素

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (6ヶ月実績)	参考
社員制度改革に伴う増減 (同一労働同一賃金・定年延長影響・チーム制の導入)	営業利益 Δ 6.0 億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 : Δ 5.5 億円 • 警備輸送 : Δ 0.2 億円 • 重量品建設 : Δ 0.1 億円 • 物流サポート : Δ 0.0 億円
特別手当支給 (2020年度の反動増)	営業利益 + 19.8 億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 : + 15.1 億円(前年4月~6月) • 海外 : + 0.4 億円(前年4月~6月) • 警備輸送 : + 2.5 億円(前年4月~6月) • 重量品建設 : + 0.2 億円(前年4月~6月) • 物流サポート : + 1.4 億円(前年4月~6月)
退職給付引当金 (過年度引当不足) (2020年度の反動増)	営業利益 + 7.4 億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 : + 7.4 億円(前年4月~6月)

補足1:2021年12月期 1月~6月実績情報

外部環境の変化およびその他の変動要素

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (6ヶ月実績)	参考
収益認識基準適用による減収影響	売上高 △ 178.5 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : 売上高 △5.2億円 物流サポート : 売上高 △173.2億円
退職給付会計の数理差異償却額の増加	営業利益 △ 3.4 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 2.7 億円 警備輸送 : △ 0.6 億円 重量品建設 : △ 0.0 億円
日通商事リース事業分社化影響	売上高 △ 191.9 億円	<ul style="list-style-type: none"> 物流サポート : 売上高 △191.9億円

補足1:2021年12月期 1月~6月実績情報

外部環境の変化およびその他の変動要素

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (6ヶ月実績)	参考
コロナウイルス 感染拡大による影響	売上高 + 529.3 億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 売上高 +290.4億円 営業利益 +124.7億円 • 米州 売上高 +29.9億円 営業利益 +11.7億円 • 欧州 売上高 +93.1億円 営業利益 +30.6億円 • 東アジア 売上高 +4.0億円 営業利益 △7.2億円 • 南アジア・オセアニア 売上高 +79.1億円 営業利益 +18.6億円 • 警備輸送 売上高 +9.1億円 営業利益 +5.6億円 • 重量品建設 売上高 +5.0億円 営業利益 +0.9億円 • 物流サポート 売上高 +18.3億円 営業利益 +2.6億円
	営業利益 + 187.7 億円	

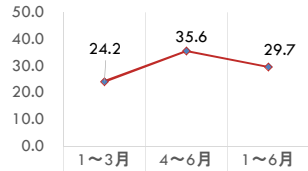
補足2:重点産業の取り組み

重点産業の取扱い推移(対前同売上高比率)

(単位: %)

国内重点産業

重点産業全体



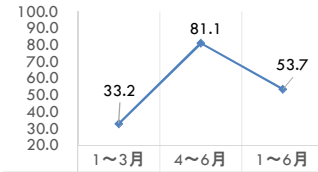
電機・電子



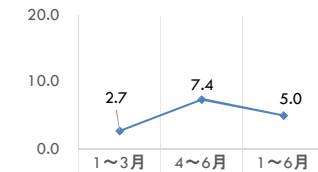
アパレル



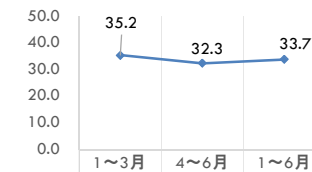
自動車



医薬品



半導体



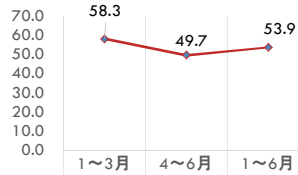
補足2:重点産業の取り組み

重点産業の取扱い推移(対前同売上高比率)

(単位: %)

海外重点産業

重点産業全体



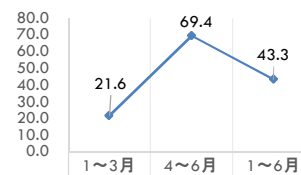
前同比率	1~3月	4~6月	1~6月
前同比率	58.3	49.7	53.9

電機・電子



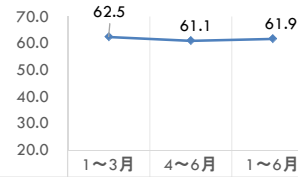
前同比率	1~3月	4~6月	1~6月
前同比率	71.6	33.1	51.0

アパレル



前同比率	1~3月	4~6月	1~6月
前同比率	21.6	69.4	43.3

自動車



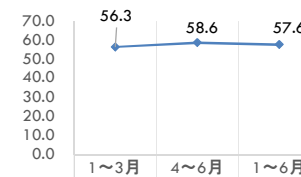
前同比率	1~3月	4~6月	1~6月
前同比率	62.5	61.1	61.9

医薬品



前同比率	1~3月	4~6月	1~6月
前同比率	81.3	76.9	79.0

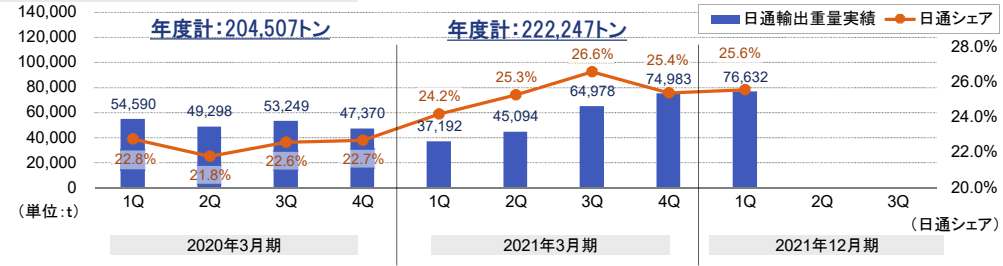
半導体



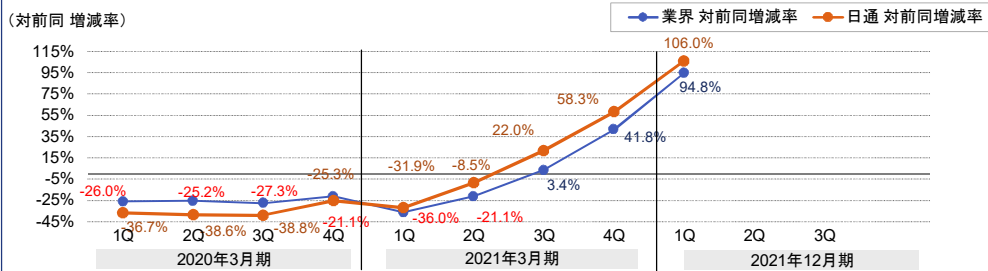
前同比率	1~3月	4~6月	1~6月
前同比率	56.3	58.6	57.6

補足3：日本発 輸出航空貨物 重量動向

日本発 輸出航空貨物 重量動向



日本発 輸出航空貨物 対前同増減率推移・比較

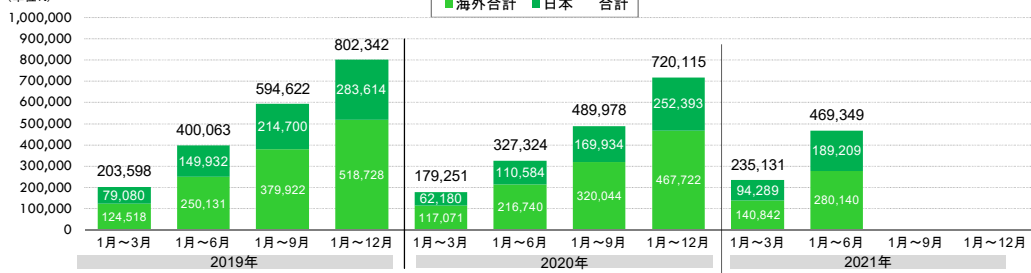


補足4：輸出貨物動向(航空)

(単位：t/チャージャブル)

発地地域名	2019年					2020年					2021年				
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	年間計	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	年間計	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	計
日本(混載)	75,277	67,156	60,847	65,084	268,363	58,841	45,579	55,874	78,048	238,343	89,719	90,527			180,247
日本(郵便物)	3,803	3,696	3,922	3,831	15,252	3,339	2,825	3,475	4,411	14,050	4,570	4,392			8,962
日本総計	79,080	70,852	64,768	68,914	283,615	62,180	48,404	59,350	82,459	252,394	94,289	94,919			189,209
米州	19,868	19,718	18,490	20,242	78,318	19,739	15,838	15,070	20,003	70,651	23,273	20,980			44,253
欧州	29,856	29,131	29,067	33,250	121,304	24,166	18,954	20,721	28,205	92,045	26,206	28,074			54,280
東アジア	35,258	36,883	38,381	41,208	151,730	35,441	34,266	33,277	56,424	159,407	44,272	43,429			87,702
南アジア・オセアニア	39,535	39,881	43,853	44,106	167,375	37,725	30,611	34,236	43,046	145,618	47,091	46,814			93,905
海外合計	124,518	125,613	129,791	138,806	518,727	117,071	99,669	103,304	147,678	467,721	140,842	139,298			280,140
総重量	203,598	196,465	194,559	207,720	802,342	179,251	148,074	162,654	230,137	720,115	235,131	234,217			469,349

(単位：t)



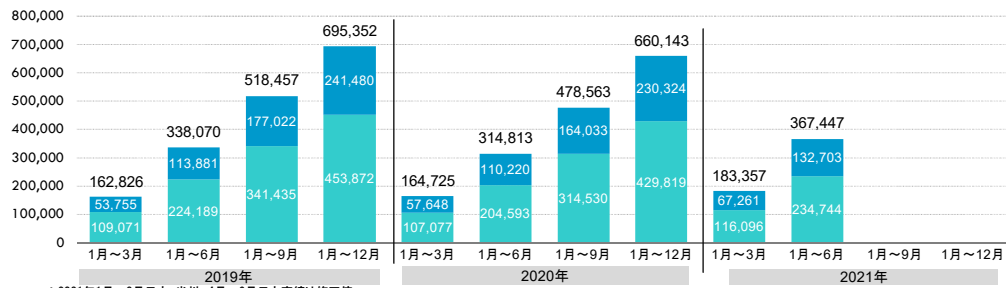
補足4：輸出貨物動向(海運)

(単位: TEU)

発地 地域名	2019年					2020年					2021年				
	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	年間計
日本	53,755	60,126	63,141	64,458	241,480	57,648	52,572	53,813	66,291	230,324	* 67,261	* 65,442			132,703
米州	9,157	9,539	8,760	9,452	36,908	9,794	9,191	9,322	9,208	37,514	* 11,223	13,391			24,615
欧州	10,943	12,330	11,932	12,058	47,263	13,193	10,656	11,072	13,545	48,465	13,667	15,025			28,692
東アジア	59,122	62,103	62,232	58,079	241,536	52,033	52,497	53,609	55,447	213,586	52,959	54,801			107,759
南アジア・オセアニア	29,847	31,145	34,321	32,847	128,160	32,057	25,172	35,933	37,099	130,261	38,247	35,431			73,678
海外合計	109,071	115,118	117,246	112,437	453,872	107,077	97,516	109,937	115,289	429,827	116,096	118,648			234,744
総重量	162,826	175,244	180,387	176,895	695,352	164,725	150,088	163,750	181,580	660,152	183,357	184,089			367,447

(単位: TEU)

■ 海外合計 ■ 日本 合計



* 2021年1月~3月日本・米州、4月~6月日本実績は修正値

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

補足5:2021年12月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (12ヶ月予想)	参考
燃油費単価変動による影響	Δ 31.5 億円 (費用増) (参考: Δ 27.6 億円/9ヶ月) ※前期(2021年3月期12ヶ月) + 26.0 億円(費用減)	1ℓあたりの単価 (前期9ヶ月平均) <ul style="list-style-type: none"> 軽油 : 103.05円(81.10円) ガソリン : 139.19円(118.90円) 船舶重油 : 60.43円(45.40円)
為替による影響	売上高 + 305.9 億円 営業利益 + 13.6 億円 (参考:9ヶ月 売上高:+289.0億円、 営業利益+13.3億円) ※前期(2021年3月期12ヶ月) 売上高 Δ 61.4 億円 営業利益 Δ 1.4 億円	9ヶ月(4月~12月)平均為替レート※(前期9ヶ月平均) <ul style="list-style-type: none"> USD : 110.22円(106.10円) EUR : 131.71円(122.30円) HKD : 14.19円(13.60円) RMB : 17.06円(15.40円) ※「9ヶ月平均為替レート」は、参考値。決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。
環境投資	営業利益 Δ 4.7 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : Δ 4.7億円
新本社移転費用	営業利益 Δ 15.0 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : Δ 15.0 億円

補足5:2021年12月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (12ヶ月予想)	参考
社員制度改革に伴う増減 (同一労働同一賃金・ 定年延長影響・チーム制の導入)	営業利益 Δ 16.1 億円 (参考: Δ 14.0億円/9ヶ月)	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 : Δ 14.7億円 • 警備輸送 : Δ 0.7億円 • 重量品建設 : Δ 0.5億円 • 物流サポート : Δ 0.0億円
特別手当支給 (2020年度の反動増)	営業利益 + 19.8 億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 : + 15.1億円(前年4月~6月) • 海外 : + 0.4億円(前年4月~6月) • 警備輸送 : + 2.5億円(前年4月~6月) • 重量品建設 : + 0.2億円(前年4月~6月) • 物流サポート : + 1.4億円(前年4月~6月)
退職給付引当金 (過年度引当不足) (2020年度の反動増)	営業利益 + 7.4 億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 : + 7.4 億円(前年4月~6月)

補足5:2021年12月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (12ヶ月予想)	参考
収益認識基準 適用による減収影響	売上高 △ 586.4 億円	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : 売上高 △0.4億円 物流サポート : 売上高 △586.0億円
退職給付会計の 数理差異償却額の 増加	営業利益 △ 8.4 億 (参考:△ 7.4億円/9ヶ月)	<ul style="list-style-type: none"> 日本 : △ 6.6 億円 警備輸送 : △ 1.5 億円 重量品建設 : △ 0.1 億円
日通商事リース 事業分社化影響	売上高 △ 558.9 億円	<ul style="list-style-type: none"> 物流サポート : 売上高 △558.9億円

補足5:2021年12月期 業績予想

外部環境の変化およびその他の変動要素(予想)

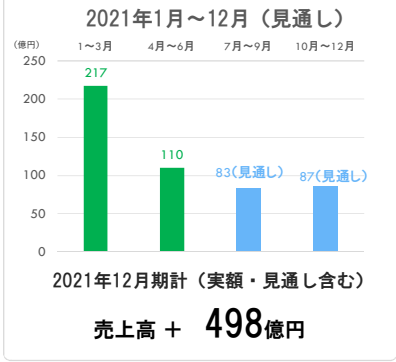
12ヶ月換算ベース

変動要素	連結業績への影響 (12ヶ月予想)	参考
コロナウイルス 感染拡大による影響	売上高 + 597.6億円	<ul style="list-style-type: none"> • 日本 売上高 +462.0億円 営業利益 +176.2億円 • 米州 売上高 + 49.0億円 営業利益 + 19.8億円 • 欧州 売上高 + 91.9億円 営業利益 + 30.4億円 • 東アジア 売上高 △ 50.7億円 営業利益 △ 18.5億円 • 南アジア・オセアニア 売上高 △ 20.1億円 営業利益 △ 0.3億円 • 警備輸送 売上高 + 12.1億円 営業利益 + 8.3億円 • 重量品建設 売上高 + 11.8億円 営業利益 + 2.5億円 • 物流サポート 売上高 + 41.3億円 営業利益 + 5.2億円
	営業利益 + 223.7億円	

補足6: コロナウィルス感染拡大の影響・反動増の詳細

12ヶ月換算ベース

売上高(実績・見通し)

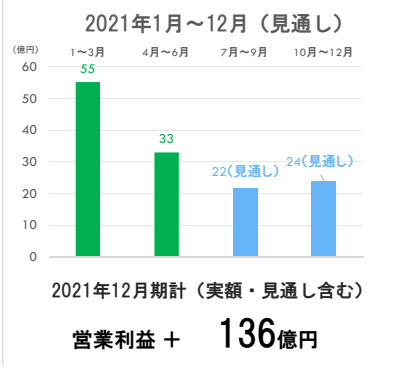
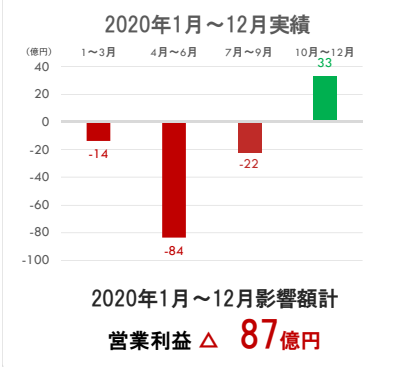


コロナウィルス感染拡大による影響(反動増) + **597億円**(見通し含む)

補足6: コロナウイルス感染拡大の影響・反動増の詳細

12ヶ月換算ベース

営業利益(実績・見通し)

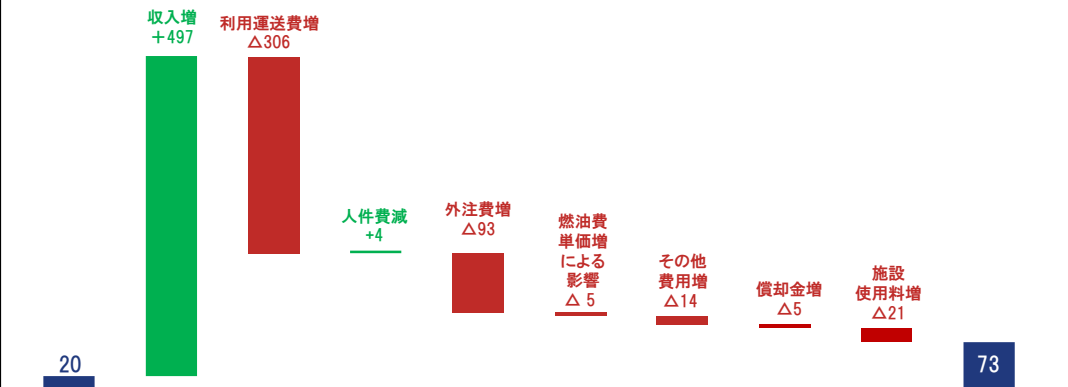


コロナウイルス感染拡大による影響(反動増) + **223億円**(見通し含む)

補足7：個別利益増減(FY2021 1Q実績)

(単位：億円)

(注)グラフの増減は、利益ベースで表示



2021年3月期1Q

2021年12月期1Q

各種費用詳細(通期実績)		(費用ベースで表示)	
外注費増	+93(+9.0%)	利用費増	+306(+114.4%)
備車費	+17(+4.0%)	鉄道利用費	+5(+6.1%)
下請費	+75(13.4%)	船舶利用費	+51(+72.8%)
作業人材派遣費	△0(△1.7%)	航空利用費	+250(226.6%)

※2021年8月19日「備車費・下請費・作業人材派遣費」の金額を修正

Copyright © 2021 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

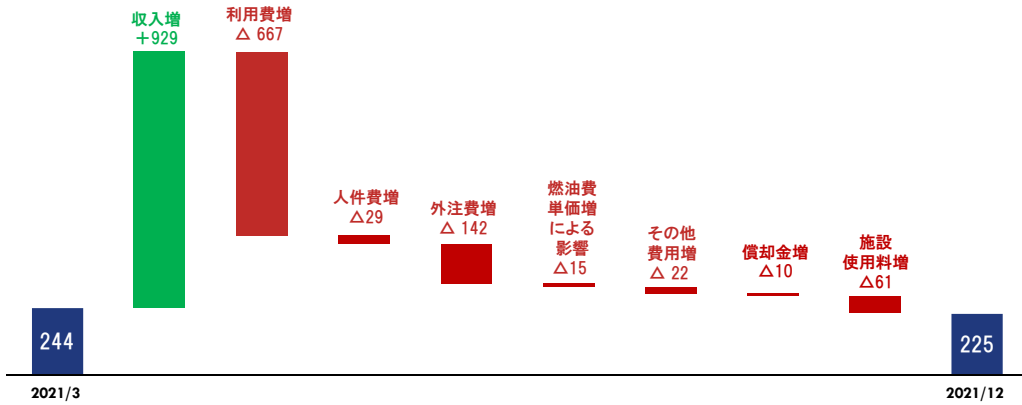
2021年12月期 第1四半期決算説明会資料

63

補足7:個別利益増減(FY2021 見通し)

(単位:億円)

(注)グラフの増減は、利益ベースで表示



(億円未満切捨て)

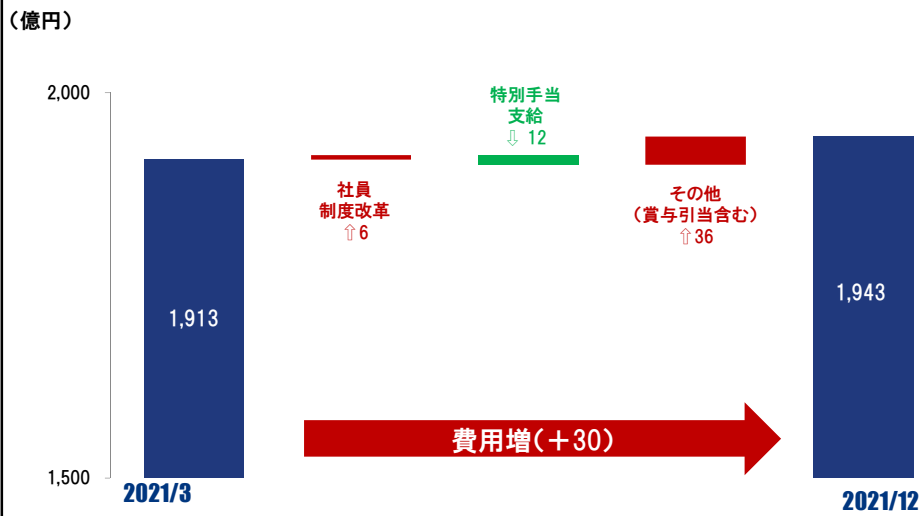
各種費用詳細(通期実績)

(費用ベースで表示)

外注費増 +142(+4.4%)		利用費増 +667(+69.7%)	
備車費	+9(+0.7%)	鉄道利用費	Δ3(Δ1.4%)
下請費	+136(+7.8%)	船舶利用費	+118(+54.9%)
作業人材派遣費	Δ3(Δ3.9%)	航空利用費	+552(122.3%)

補足7:個別利益増減(2021年12月期 個別 総人件費の増減)

※費用ベースで記載
 (単位:億円)



We Find the Way



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。